



コンテンツ一覧

- ◆村山隆紀副院長から就任のご挨拶
- ◆当センター診療科のご紹介 vol4 呼吸器外科

◆村山隆紀副院長から就任のご挨拶



令和3年4月より業務担当副院長職を拝命いたしました村山です。

専門領域は「麻酔科」で、会津医療センターにおいて「麻酔診療」、主として「全身麻酔」を必要とする手術をお受けになれる患者さんに対して、「術前診察」、「術前説明」、「全身麻酔の開始」、「全身麻酔中の患者さんの安定状態の維持」、「全身麻酔中の安全管理」、「全身麻酔からの速やかな回復」、「術後回診」を行うことにより、安全かつ安逸な入院治療生活を過ごしていただけるよう日々奮闘しております。

昨年初頭から全世界的に広がったコロナ禍は、全世界のあらゆる人々の生活に多大なる支障をもたらし、今なおその余波は収まる様相を見せません。私共会津医療センターの診療活動にも甚大な影響が及び、昨年度は診療活動制限等を行わざるを得なかった時期もあり、皆様の医療に対するご要望にお応えしきれなかった事態もございました。これを乗り越え今年度に入ってから、徹底した感染対策を講じ、診療体制を整え、以前に増して皆様のご期待に添えるよう頑張っております。

「全身麻酔」と言うと、突然意識がなくなる、何をされているかわからなくなる、二度と目覚めないのではないか、などと言った強い恐怖感や不安でお困りの患者さんを多く見かけます。しかし、ご安心を。「全身麻酔」から目覚めないことはありません！以前福島民報紙に寄稿させていただいたことがあるのですが、「全身麻酔」は必ず覚めます！「全身麻酔」はお薬で眠った状態を作り出すだけです。お薬が切れたら嫌でも目覚めてしまいます。また、患者さんが眠っている間は、私達麻酔科医が患者さんの直ぐ側に寄り添い、手術中の患者さんの守護者として、安定と安全を守り続けます。

とは言っても目覚めたら手術の傷の痛みがやってくるわけですが……。でも時間とともに楽になります！これまでも皆様この痛みを乗り越え、お元気になられて退院されていっておられます。乗り越えられない壁はない！

今後も、手術医療を安全かつ安心して受け、乗り越え、元気になられて退院することができるよう日々頑張っており活動を続けてまいりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

また今後は、「麻酔診療」以外の場においても、皆様の健康回復・管理・維持に必要な病院活動の一助となる業務も担当させていただけるようになりました。多少なりとも会津医療センターの発展、会津地区の皆様の健康増進に貢献できるよう鋭意努力させていただきます。

よろしくお願ひ申し上げます。



◆当センター診療科のご紹介 vol4 呼吸器外科

外科学講座 准教授 樋口 光徳



呼吸器外科は肺癌を中心とした胸部の悪性腫瘍を主な対象疾患とした診療科です。当科では肺癌に対する外科手術を中心として、切除不能な進行肺癌の患者さんに対する治療も積極的に行っています。その他には肺の良性腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、重症筋無力症、手掌多汗症、原因不明の胸水など胸部の多くの疾患を対象として診療を行っています。呼吸器外科は2016年10月に当センターに開設され、まもなく診療開始後5年になる診療科です。肺癌を含む胸部の手術について、現在は約8割の患者さんで胸腔鏡を用いた手術を行なっています。現在は小さい操作孔を3カ所あけて行っていますが(図1)、今後は操作孔を1ヶ所に減らして単孔式という方法で行い、患者さんの身体的負担をより軽減する方法に移行する予定です。また腫瘍が周囲へ浸潤しているような肺癌の患者さんに対しては従来通り開胸して手術を行い、完全切除を目指しています。



図1 胸腔鏡手術

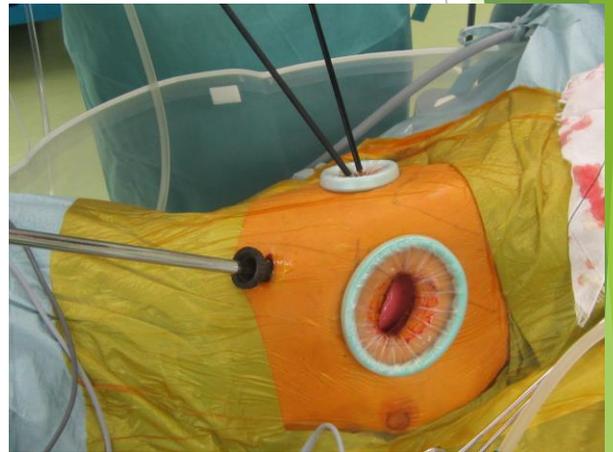


図1 操作孔

肺癌に対する化学療法について、現在は病理診断の際に幾つかの遺伝子変異を同時に検索するのが一般的となっています。そしてこれらの遺伝子に変異を認める場合にはそれぞれに対応する分子標的薬で治療を行うこととなります。また最近では、従来の抗悪性腫瘍薬と併用しながら免疫チェックポイント阻害剤での治療も積極的に行われています。当初はステージ4と診断されていた肺癌の患者さんに対する免疫チェックポイント阻害剤での治療開始後に、全ての癌が身体から消失したという経験も少しずつ増えています。このような薬物治療の進歩は着実に進行肺癌の患者さんの生命予後を改善させています。

薬物治療の進歩は患者さんに大きな希望を与えるものですが、肺癌を制御するにはやはり早期発見が大切です。そのためにも肺癌検診には大きな意義があります。当科では2019年4月から東京の「みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社」との産学共同研究として、人工知能(AI)を肺癌検診業務(胸部X線画像読影)に導入するためのプロジェクトを始動致しました。2020年9月には開発したAI

について特許庁へ特許出願いたしました(図2)。2021年秋からはこのAIを用いて、過去の画像での実証実験を開始します。今後の目標は医療機器として承認を受け、市場で販売して全国展開することです。

今後も診断精度を向上させ、会津からイノベーションを発信したいと考えています。

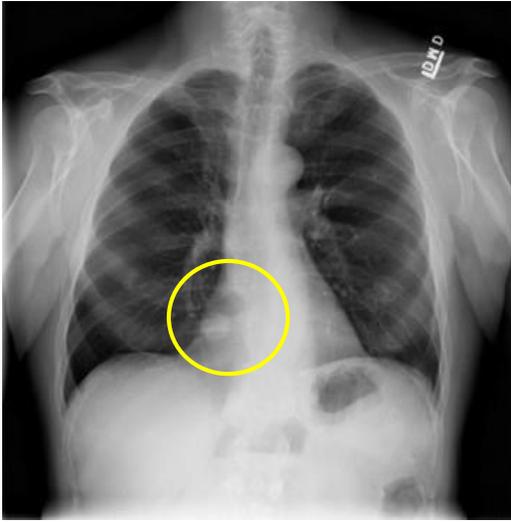


図2 右肺結節(丸の中)



図2 AIでのヒートマップ表示

当科ではもう一つ進めている研究があります。これまでは呼吸器手術の術前にCTで肺と胸壁の癒着や浸潤を予想することは困難と考えられてきました。当院では320列の高性能のCT撮影装置を有しており、呼吸動態CTを撮影することが可能です。これは患者さんに呼吸を行ってもらいながらCTを撮影するもので、肺と胸壁の動きを動画で確認できます(図3)。

これらの運動が独立しているか協調しているかで癒着の有無を区別しようとする試みです。これまでに約200例の手術症例のデータを蓄積しており、今後データを解析する予定です。今後も他の部署や施設などと協力しながら会津地域内で完結できる医療、そして臨床に結びつく研究を継続して参りたいと考えています。

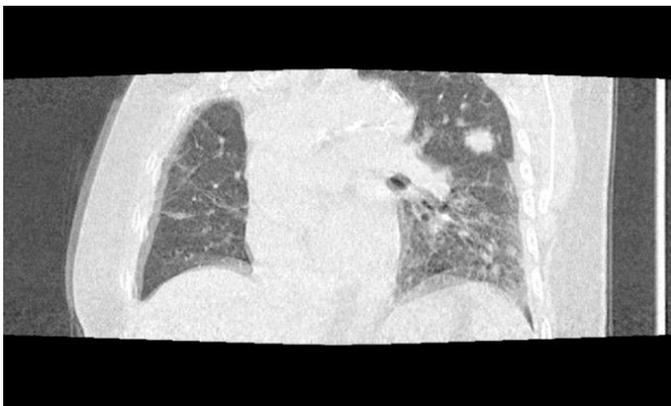


図3 呼吸動態CT(実際には動画で確認できます)

当院では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面のあいだ患者さんへの面会を制限しております。

皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



当センターの 新型コロナウイルス感染症対策

面会禁止

『患者さんへのご面会』は、禁止させていただきます。

ご面会が可能な方
「病院から依頼のあった方」

- ※ 上記に該当する場合でも、体調不良(発熱・だるさ・風邪症状・頭痛・関節痛・下痢嘔吐、その他体調不良等)がある方は面会をお断りさせていただきます。
- ※ 面会者は1度の面会につき2名までとし、面会場所は、できる限り解放された空間(デイルーム等)とさせていただきます。
- ※ 入退院に関わる物品の受け渡しは、正面玄関、病棟エレベーターホールとさせていただきます。

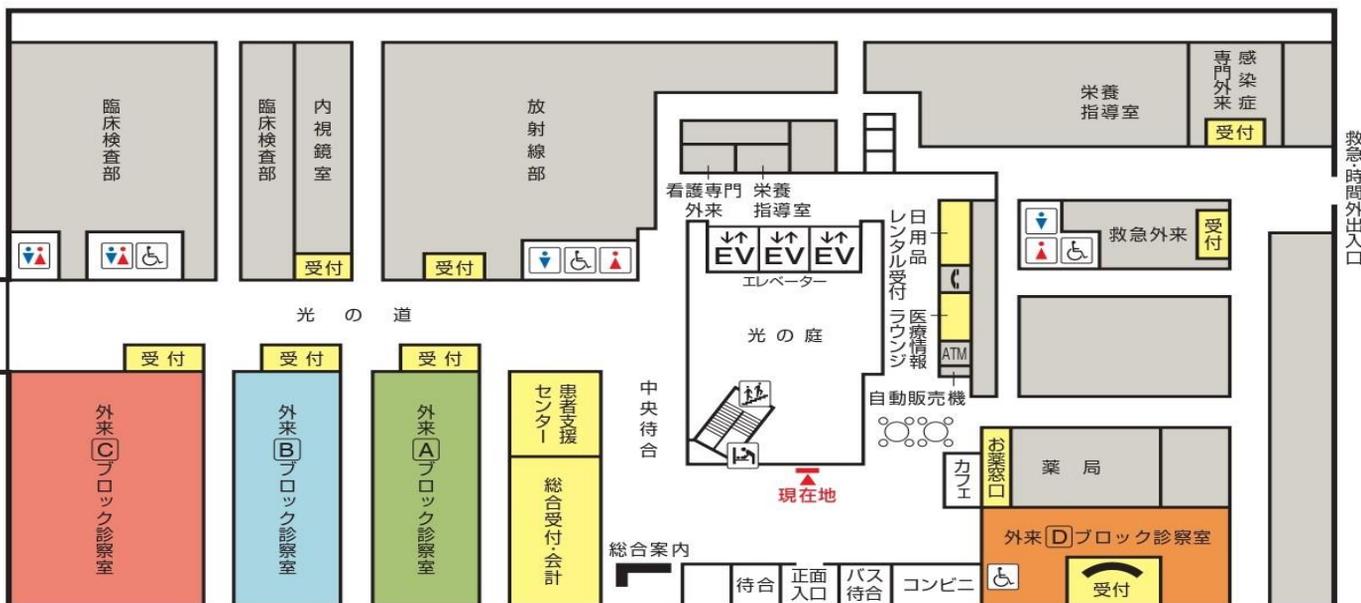
業者の方およびセンター内にご用のある方

入館予定の部署へ健康状況を報告後、所属長の判断で入館となりますので、関係部署にご連絡してください。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします

2021年2月18日
会津医療センター附属病院長

1F フロア案内図



〔C〕ブロック

整形外科・脊椎外科、
耳鼻咽喉科、泌尿器科、
心身医療科、歯科

〔B〕ブロック

外科、小腸・大腸内科、
大腸肛門外科、緩和ケア科、
麻酔科、眼科、呼吸器外科

〔A〕ブロック

総合内科、循環器内科、
感染症・呼吸器内科、消化器内科
糖尿病・内分泌代謝・腎臓内科、
脳神経内科、皮膚科、心臓血管外科

〔D〕ブロック

血液内科、漢方内科、
漢方外科

救急時間外出入口